

カルメル

霊性センターニュース



2025年7月

421号

目次

目次	1
心の泉	2
カルメル会の企画案内	2 2
東京	2 3
京都	2 5
名古屋	2 7
諸所の企画案内	2 8
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	3 2

心の泉



宇治カルメル会修道院



第四巻 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる

第十章 聖体拝領を平気で怠ってはならない

4 できるだけ早く清めなさい

ゆるしの秘跡や聖体拝領を後に延ばして何の役に立つであろう？できるだけ早く自分の心の不純物を取り除きなさい。すぐに毒を吐きだしなさい。薬を早く飲みなさい。そうすれば、ずっと爽快になるであろう。もし今日、何か理由があって拝領をやめるなら、明日はもっと重大な理由が見つかるかもしれない。こうしてあなたは、長くご聖体を拝領しないことになり、聖体拝領をますます受けつけない者になってしまうであろう。

できるだけ早く、あなたの無気力に揺さぶりをかけ、今の不熱心をぬぐい去りなさい。長く不安のうちにとどまり、心配な生活をし、日々のあれこれのさまたげのために聖体拝領を怠ることは、何の役にも立たない。むしろ聖体拝領を長くしないしていると、大きな損害を受ける。なぜなら、危険な冷淡さが必ず生じるにちがいないからである。ああ、何ということか！信心の生ぬるい、心の散漫な人は、何かの言いわけを見つけてはゆるしの秘跡を延ばし、聖体拝領を怠り、自分を警戒する義務をのがれようとする。

5 よく準備しなさい

聖体拝領を平気で怠る人は、なんと乏しい信仰と弱い愛しか持ち合わせていないのであろう！ゆるされるなら、毎日でも聖体拝領できるほど、清く良心を守って生活する人は、なんと幸せで、神に喜ばれることであろう。時として謙遜のために、また何か正当な理由があって、聖体を控えることがあれば、その聖体への尊敬はほめられるべきである。しかし、いくらかの冷淡のためだったなら、できるだけ熱心をふるい起こすようにしなければならない。そうすれば私は、そのよい意向を見て助けよう。神が一番に目にとめるのが善意である。

6 霊的聖体拝領

正当な理由がある場合に、聖体を受けたいという熱心な望みと、敬虔な意向をもっているなら、秘跡の効果を失うことはない。熱心な信者なら誰でも、毎日、どの時間も自由に霊的聖体拝領をして、多くの利益を得ることができる。定められた日には、愛と尊厳とをもって、救い主のからだを受けなさい。その時には、自分個人の慰めよりも、神にほまれと光栄を帰するためである。信者は、キリストの受肉と受難の神秘を敬虔に黙想するたびに、神秘的なこの宴にあずかり、キリストに対する愛をふるい起こし、目に見えない糧を受ける。

7 良識のある信心

しかし祝日だからといって、あるいは習慣のためだけで、聖体拝領の準備をする人は、多くの場合、十分な効果がない。ミサを献げ、聖体を拝領するたびに、自分をいけにえとして主に献げる者は幸いである。ミサを献げる時は、早すぎることも長すぎることも避けなければならない。これについてはよい習慣を守りなさい。あなたは他人にわずらわしさや退屈さを感じさせてはならない。よい伝統に従って、良識のある形式を保ち、自分だけの信心と慰めを目的としないで、他人の利益を顧みなければならない。》



いつくしみ深い父よ、すべての悪からわたしたちを救い、現代に平和を与えてください。
現実を変えるにはあまりにも無力とを感じる時、小さな一歩が 小さな祈りがいつくしみ深い父である神の正義を実現するための力となることを教えてください。
東京教区 「ミャンマーの平和を求める祈り」より

イエスの祈りは、「両親として、祖父母として、息子や娘として、わたしたちが互いに愛し合う輝かしい体験」に豊かな意味を与えてくださいます。これこそが、わたしたちが世に告げ知らせたいこと。主がわたしたちに「一つ」になることを望まれているように、わたしたちが暮らし、働き、学ぶところで、「一つ」になるためです。違っていても「一つ」、大勢いても「一つ」、あらゆる状況の中で、人生の全ての時に、いつも「一つ」です。このようにして、わたしたちはキリストに根差して互いに愛し合うなら、社会と世界の中の一人一人にとって平和のしるしとなります。忘れないようにしましょう。「家庭から人々の未来は生まれるのです。」と教皇レオ 14 世は強調されます。

信頼の道を行く

産毛の小鳥テレーズが「弱いままに留まる」というのは、何もしないということではありません。弱い小鳥なりに羽ばたこうとします。結果的に飛び立てなくても、くじけることなく、今日も、又羽ばたき、新たな努力を続けます。すべてが自分の努力にかかっているかのように、同時に神の助けなしに何も出来ないと「神の恵みへの絶対的信頼のうちに…*1



あなたの望みや希望に限度をおくのは、神の無限の慈しみをみくびることです。
神の慈しみへの果てしない望みは、わたしの宝です。一修練者に *2

主は、わたしの目の前に、大自然の本を開き、神さまが造られた花はどれもみな美しく、バラの輝くような美しさも、ユリの清らかな白さも、小さいすみれの香りや、ひなぎく(ご復活の頃に咲くのでパカレット「小さな復活」と呼ばれる)のかわいらしいあどけなさをそこなうものでない



いと悟りました。・・・また主の愛は、主の恵みに少しも抵抗しないいちばん単純な人のうちにさえも、最も崇高な人のうちにおいてと同じように、現れることを悟りました。*3

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートル・ダム・ヴィ

* 1 「弱さと神の慈しみ」18p 伊従信子訳・編 サンパウロ社

* 2 「弱さと神の慈しみ」63p //

* 3 「自叙伝原稿 A」伊従信子改訳 ドン・ボスコ社

フランシスコ教皇の言葉⑮

喜びは、人を宣教師にします。

喜びは、一人にとどめておけないからです。

喜びは、他の人と分かちあわずにいられないのです。

何の喜びでも喜びを自分だけにとどめておくことはできないでしょう。子どもが生まれた時の親の喜びはどれほどのものでしょうか。私事にわたりますが、私の父は長男が生まれた時（昭和 16 年）、喜びのあまり電話をかけまくり、電話機がこわれてしまったと、死後、だれかから聞きました。真偽のほどは定かではありませんが、かけまくったのは事実でしょう。

教皇様がおっしゃる「喜び」とは、この世のさまざまな喜びを超える救いの喜びのことでしょう。『福音の喜び』（2013）では、こうおっしゃっています。

福音宣教の第一の動機、それは、わたしたちが受けているイエスからの愛であり、イエスをますます愛するようにとわたしたちを促す、救いの体験です。

（264）

神から愛され、キリストによって救われたという体験からくる喜びこそ、私たち一人ひとりを福音のまことの「宣教師」とするのではないのでしょうか。

（P. 九里）

P.S. 「フランシスコ教皇の言葉」（①～⑭）は、カルメル会の HP の「霊性センターニュース」に掲載されています。「霊性センターニュース」とクリックしてください。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (203)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

人間的なことの深みと高み ” 私の知らぬ何かしら…” (3)

最後になりますが、マラガから彼に便りをよこした親友のホアン・エヴァンヘリスタに、彼は手紙の中でこう答えています。「苦しみを受ける彼の霊魂は、そこからは遠く離れています。彼は、人が自分に対して悪く言い、敵対的な行動を取れば取るほど、かえってそれによって神と隣人に対する新たなより大きな愛が引き起こされることを知っているのです」。そしてたしかにとっても意気消沈しながら、「*filii matris meae pugnauerunt contra me.* (私の母の子たちが、私に対して逆らった)」と付け加えています。そしてこう言いながら、手紙を閉じています。「彼を神にゆだねます。彼の終りは近いのですから」。

これらの手紙から私たちが受け取る教えは、最終的に次のような出来事をもって美しく飾られています。12月12日、死ぬ二日前、彼は光を、つまり火のついたろうそくを持ってくるよう願いました。そして自分が受け取ったそれらすべての手紙を燃やし始めたのです。封筒まで燃やしました。ヨハネ修士は、他のすべてのことと同じように、このことに関してもゴシップや陰口に我慢できませんでした。そしてまた証人が言っているように、「彼は、人の服についている小さな糸くずにも、人が気づいたり、赤面したり、恥じ入るようなきわめて小さな事柄にも手を触れることは、決してありませんでした」。それゆえ、「すべての人の名誉と信用を守るために」それらすべての郵便物をきっちりと燃やしたのです。(続く)



P. 九里訳

年間 第14主日 (C)

(ルカ10：1－12、17－20)

「神の國はあなたがたに近づいた」と彼らに言いなさい

私たちはルカの福音からイエスがどのように弟子たちを送り出したかについて読みます。彼らは二人ずつ組んで貧しい、質素な姿で、平和な人たちに彼らの使命を伝えに出かけていきました。

本日の福音は、宣教師だけでなく全てのキリスト者にとっても意味深い挑戦です。私たちは皆が宣教師であるように、よい知らせを伝える使者となるように召されているからです。イエスは、本日の福音の教えによって、宣教師だけではなく全てのキリスト者を送り出したのです。イエスは困難な使命のもとに送り出します。食べものや飲みものについて心配しなればなりません。主への完全な委託と信頼があるだけで、安全への保障は全くないまま出かけなければなりません。キリストの力を持つ「よい知らせ」を運ぶ人は、「神の国」、愛と奉仕の国を告げ知らせます。

私たちは、キリストの使者です。人を救うというキリストの仕事を続けなければなりません。福音は、いくつかの教えを与えています。神に完全に委託するために宣教者は、金銭や、食べ物、衣服に関して何も心配する必要がありません。生きている信仰とふさわしい生活を必要とするだけです。宣教者は、平和と愛の使者でなければなりません。平和を望むだけではなく、平和をもたらす人、師を習って平和をつくり出す人でなければなりません。イエスが師であるのですから、宣教師も困難や失望に耐えなければなりません。勇気を失って、あきらめてはなりません。何も功績を持ってはなりません。イエスが「世の終わりまで」私たちと共にいてくださいます。イエスと共にいることだけで、私たちは喜びます、「私たちの名前が天の国に記されているからです」。私たちはイエスのものです。

日常生活の中でイエスの力を見つけましょう。兄弟姉妹に「神の國は近づいた」と告げましょう。

(Sr. Paulina)

年間 第15主日

(ルカ10：25－37)

今日の福音書は、「先生、何をしたら永遠の命を受継ぐことができるでしょうか。」と律法の専門家がイエスに尋ねる場面から始まります。イエスは律法学者に、律法に何と書かれているか、どう読んでいるかと尋ね、「心を尽くし、精神をつくし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を愛しなさい」と律法学者は答えます。イエスから、正しい答えでそれを実行しなさい。」と言われますが、律法学者は自分を正当化するために「わたしの隣人とは誰ですか」とイエスに尋ねます。

そこでイエスは「善きサマリア人」の譬え、追いはぎに遭った人と出会った人の姿が語られます。最初は祭司が道を下って来て、その人と出会うのですが、その人を見ると道の向こう側を通って行ってしまいます。同朋が倒れているというのに、神に仕える者であるのに、通り過ぎてしまいます。そして次にレビ人。彼らも祭司の一族なのですが、祭司と同様にその人を見ると、道の向こう側を通って行ってしまいます。

そして最後に通ったのがサマリア人。ユダヤ人と普段交際しない人がその人を見て、心を動かされて憐れに思って、近寄り、さらに傷に油とぶどう酒を注いで、包帯をして手当をし、宿屋に行って介抱します。それだけでなく自分がずっと傍にいられないため、宿屋の主人に介抱を願い、費用がもっとかかったら、帰りに払うとまで言ったのです。誰が追剥ぎに襲われた人の隣人になったのでしょうか。律法学者が答えた様に、助けた人、サマリア人ですね。イエスは行って、あなたも同じようにしなさいと言われます。

私たちにとって、隣人とは誰なのでしょう。今となりにいる人？ 家族、親戚？ 隣の家の人？ 学校や社会でともに生きる人？ 特定の人を思い浮かべようとするなら、最初から枠を嵌め、対象を狭めてしまうことになってしまうでしょう。すでにある人、決まっている人、決められている人だけが隣人ではないのでしょうか。

私たちは日常生活の中で、様々な人と出会います。一瞬のすれ違い、一瞬の出会い、もしかすると生涯2度と会うことのない人がほとんどかも知れません。その様な中で、助けが必要な人に会った時に、憐れに思い、心を動かされ、善きサマリア人の様に、私たちが「隣人」になる様に、とイエスは私たちひとりひとりを招いておられます。

慈しみ深い父なる神は、私たちに目を留めて憐れに思い、愛する独り子を遣わされ、人となられた神の御独り子は、私たちの罪の贖いのため、十字架上で命を捧げて下さいました。神が私たちの隣人になって下さったのではないのでしょうか。このことを想い、私たちが日々出会う人、助けが必要な人の隣人となり、歩むことができますように。

(Fr. 古川利雅)

年間 第16主日 (C)

(ルカ10：38－42)

「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」

ルカの福音書は、現代人にとって最も読みやすい福音書ですが、それは普遍的な視点で、私たちと同じような人々に向けて書かれたからです。今日は、マルタとマリアという姉妹について読みます。「良い方」とは、主に耳を傾けることでしたが、私たちの慌ただしい生活の中でも同じです。

「マリアは良い方を選んだ」。私たちは忠実なマルタに同情するかもしれませんが。彼女はもてなしの模範です。なぜマリアはマルタを助けないのでしょうか？彼女は怠け者？いいえ違います。マルタの働きぶりを見下すこともできません。客をもてなすことは必要です。しかし福音は、もう一つのもっと重要なもてなし、すなわち身体だけでなく知性と心を込めて「神の言葉に耳を傾けること」の存在を気づかせてくれます。

物質的な必要を満たすために働くのは良いことですが、同時に霊的なものをないがしろにしてはなりません。マルタの姿は、私たちの霊的成長にとってより良いことを忘れてはならないという警告であり、私たち皆に反省を促します。マリアの行動は、主のすぐそばに一緒にいることの大切さを教えています。主の声に耳を傾け、心を開いて主の愛を受け取ることです。実際、マルタはもてなしの業を通して、マリアは祈りの心を通してイエスがいらっしゃることを喜び、二人とも愛を表したかったのです。キリスト者にとって仕事と祈りのどちらも大切です。私たちは、仕事と祈りのために時間を割り、両方とも良いバランスを保つ必要があります。

福音は、キリストのそばに座ってキリストとの関係を深めるよう私たちを招いています。キリストからの語りかけに注意を払いながら。キリストをお迎えすることを妨げたり、キリストの現存から注意をそらしたりしないようにしましょう。マリアと同じく「良い方」を常を選びましょう。

(Sr. Paulina)

年間 第 17 主日 (C 年)

(創世記 18 : 20-32、ルカ 11 : 1-13)

今日の第 1 朗読は、アブラハムのソドムとゴモラへの執り成しの祈りです。

ここでアブラハムは神と祈りにおいて格闘します。

それは、神の正義は他の人間社会一般に行われている正義と同じであっていいはずがないではなありませんかという祈りの戦いです。

通常の間人社会では、罪を犯したら連帯責任、という考え方が多く支配していると思います。

あるいは、ある共同体、家族内で、ただ一人の人が道から外れ、ギャンブルなどでお金を浪費し続けてそれを止められない場合、その共同体全体が破滅して。連帯責任の考え方には、このような、罪を犯している人を戒めることができず、罪を犯し続けていることを許容した周りの人も悪いという考え方があるかもしれません。

しかし、時には、国の支配層が腐っているために、弱者の声が聞き入れられず、弱者が犠牲になっていることもあります。

いくら声を上げても自分たちの利益のためにかき消されてしまい、国や共同体が誤った方向に導かれ、最終的に戦争が起こり破滅してしまうということも人間の歴史は経験しています。

アブラハムの戦いは、神に、そのようなことがゆるされてよいのですか、正しい人が悪人の罪ゆえに一緒に滅ぼされても良いのですかと祈りのうちに戦います。

そしてそれだけでなく、たとえ多くの悪人がいても、正しい人がいるのでしたら、正しい人のために、その人の共同体を守ってくださいと祈ります。アブラハムの祈りは何度も繰り返し交渉される祈りです。

今日の福音の中で、祈りについてイエス様は教えておられますが、イエス様が教える、しつように頼むこと、しつように祈り続けることはまさにアブラハムに当てはまります。

私たちは祈りの中で、神と格闘してよいのです。そして、イエス様は、祈りのうちに神と格闘してよいことを教えながらも、祈りの根底の祈り、主の祈りを私たちに教えてくださいました。

主の祈りを日々唱え、その言葉を身に刻みながら、私たちは日常のあらゆる経験を主の前に携え、神と祈りの中で格闘するのです。

アブラハムは祈りの格闘を通して、神の憐れみを体験しました。

(P. 志村)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2025年5月28日

インド：「女性」をテーマにした十字架の道行き、 幼いイエスの教会で開催



2025年3月9日、インドのビカルナカッテ（マンガル）の、幼きイエスに奉獻された教会で、「女性」をテーマにした十字架の道行きが野外で開催されました。多くの信者たちがこの祈りと内省のひと時に参加し、キリストの苦難を黙想しながら、現代社会で女性が直面する苦難に意識を向けました。

3月8日の国際女性デーに合わせて、この祈りは、抑圧、不平等、搾取、低い識字率など、多くの女性が背負っている重い十字架を浮き彫りにしました。十字架の道行の各ステーションの考察は、こうした女性の社会問題に光を当て、参加者に女性の解放と立場の向上への努力を促すものとなりました。

この信心業はまた、イエスの母聖母マリアに焦点を当て、聖母が苦闘する女性に力とインスピレーションを与える取次者とされました。女性たちは自ら十字架の道を歩み、困難を乗り越える力と信仰を象徴する長さ2.74メートルの十字架を担いました。

このイベントには多くの信者たちが集まり、イースターに備えて力強い霊的、社会的な目覚めを呼びかけるものとなりました。

(訳・注:小宮山延子)



いのちの言葉 7 月

ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに來ると、
その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、
自分のろばに寄せ、宿屋に連れて行って介抱した。¹

(ルカによる福音書 10・33)

1

マルティーンは、ヨーロッパのある大都市の地下鉄に乗っています。周りを見ると乗客は誰もが皆、スマートフォンに夢中です。彼らはバーチャルな（仮想の）世界と繋がっていますが、実際には誰もが孤立状態にあります。彼女は心の中で思いました。「私たちはもう、お互いに目を合わせることもなくなってしまったの？」と。

これは、物質的に豊かであっても人間関係がますます希薄になっている現代社会でよく目にする光景です。しかしながら、ここでも福音の「見よ、わたしは万物を新しくする」²という創造的で独特なメッセージが喚起させられます。

「永遠の命³を受け継ぐために何をすべきか」とイエスに問いかける律法学者に対して、イエスはあの有名な「善きサマリア人のたとえ話」をもって答えます。そこでは、当時の社会で人々から尊敬されていた祭司とレビ人が、強盗に襲われ瀕死の状態で道端に倒れている旅人に遭遇しながら、何もせずに通り返していく話が語られています。

ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに來ると、
その人を見て憐れに思い …

隣人を愛せよ⁴という神の戒めをよく知る律法学者に対しイエスは、異邦人で、当時異端、敵とみなされていたサマリア人をその手本として示されます。彼は負傷した旅人を見て心の奥底から湧き出る深い憐れみに駆り立てられ、旅を中断し、近寄ってその人を介抱しました。

すべての人が罪によって心に傷を負っていることをイエスはよくご存じです。イエスの使命は、神の憐れみとその無償の赦しを人々にもたらすことにあります。そして、人々の心を癒し、彼らが互いに親しく交わり、分かち合えるようにすることです。

「… 御父のように憐れみ深く、完全になるために、私たちはイエスを見つめ、彼に学ぶ必要があります。… 愛には絶対的価値があります。愛ゆえにすべてのものに意味が出てくるからです。この愛の最高の表われを『憐れみ』のうちにみることが出来ます。憐れみゆえに私たちは、家庭や学校、あるいは職場で、日々出会う人々の欠点や誤りに立ち止まることなく、相手を常に新しい目で見ることが出来ます。また人を裁かず、むしろ人から受けた痛みを赦し、忘れ去ることも出来るでしょう。」（キアラ・ルービック、「いのちの言葉」2002年6月より）

ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに來ると、
その人を見て憐れに思い …

「行って、あなたも同じようにしなさい。」⁵これが律法学者に対するイエスの明確な答えでした。イエスは、み言葉を受け入れるすべての人にも同じように語られます。それは人生の途上で、日々私たちが会おう人々の心に寄り添い、その傷に自ら「触れる」ことを意味します。

私たちが、福音的な隣人として生きていくためには何よりもまず、イエスに私たちの目から偏見と無関心を取り除いていただく必要があります。偏見と無関心は、自分という狭い枠を乗り越えるために大きな妨げとなるからです。

サマリア人は、自らの命を危険にさらし、勇気をもって、深い思いやりのある行動にでました。私たちは、彼から多くを学ぶことができます。他者に向かって自分から一歩を踏み出す彼の姿勢、相手に耳を傾ける姿勢、他の人の痛みを自分のものとして受け止める姿勢、そして裁くこともなく、「時間を無駄にする」不安からも解放されて自由になる彼の姿勢にも倣うことができますでしょう。

ある韓国人の若い女性が自らの体験を語ってくれました。「私とはまったく文化も違い、しかもよく知らない一人の青少年を助けようとした時、どうすればいいのか分からなかったけれど、とにかく勇気を出してやってみました。すると驚いたことに、その子を助けることにより、私自身の心の傷が『癒された』ことに気がきました。」

今月のみ言葉は、私たちにキリスト教的ヒューマニズムを生きるための「黄金の鍵」を与えてくれます。神のみ姿が映し出されている人間性というものに気づかせてくれるからです。と同時に、物理的・文化的に身近であるという狭い枠組みを乗り越える術も教えてくれます。こうして「私たち」という枠組みを超えて、視界を「すべての人」に向かって広げることにより、私たちは、社会生活の基盤となる人間性というものの大切さを再発見することができるでしょう。

ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに來ると、
その人を見て憐れに思い …

レティツィア・マグリといのちの言葉編纂チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

¹ 日本聖書協会「新共同訳」

² ヨハネの黙示録 21・5 参照

³ ルカ 10・25-37 参照

⁴ 申命記 6・5；レビ記 19・18

⁵ ルカ 10・37



2025年 夏号 No.397

《希望は欺かない—2025年通堂聖年の中で—(2)》
聖年の『希望の巡礼者』と
イエスの聖テレジアの中の『希望』 松田浩一

カルメルの外のカルメル
—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ(10) 鶴岡賀雄

この道はいつか来た道—祈りの道、イエスとともに
歩む道 伊従信子

旧約聖書から学ぶキリスト教靈性
—創世記2章3章① 志村 武

陶器師の山暮らしの日々から
ラウダート・シ＝神のいのちへの道(6) 椿 権三

風に吹かれて再び(12)—老木に花の咲く
原 造

キリストの説かれた 幸いなる道(14) 九里 彰

靈的研究会講義録(28)—聖書・祈り・愛について
奥村一郎



2025年 四旬節特集号

「聖年に祈る」
「希望の巡礼者となるために」

絶望の体験から
—二人のテレジアの靈的起点 中川 博道

イエスのみこころと全人類
—巡礼、シノドス、ニカイア公会議、新回勅
の連続性
サレジオ会 阿部 仲麻呂

レビ記、神の励ましの声を聞く 志村 武

信仰生活の再構築 和田 誠

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、1冊 580円(+送料140円)を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特別号 計3,600円)を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

教友社定価 (1,500円＋税)

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です(教会憲章 53 番)。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神祕をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きた
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円 (税込)

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」(「はじめに」より)。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師(カルメル会)推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



愛と英知の道

——すべての人のための霊性神学——

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 智恵（1）
 - 第2章 智恵（2）
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対話
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 修徳主義とアジア
 - 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
 - 第10章 英知と（空）
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 暗夜
 - 第14章 愛のうちに（ある）
 - 第15章 花嫁と花婿
 - 第16章 一致
 - 第17章 英知
 - 第18章 活動
 - 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるがたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

書籍案内



生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価540円(税込)

【聖母文庫】 287

第2版
好評発売中!

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。([はじめに]より)



神と親しく生きる いのりの道

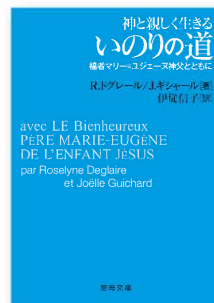
福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 246

定価540円(税込) 209頁



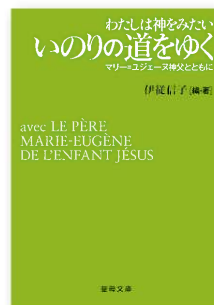
わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

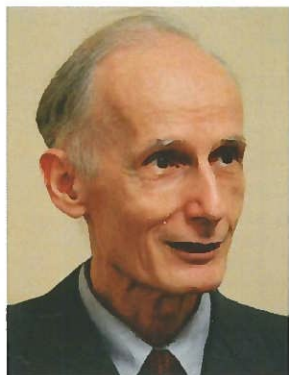
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 268

定価648円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院（黙想）**
(2025年5月～)

- ・聖書深読黙想会(土曜日 18時～日曜日 16時) カルメル会士

2025 年

5 月 24 日(土) ～ 25 日(日)

7 月 5 日(土) ～ 6 日(日)

9 月 6 日(土) ～ 7 日(日)

11 月 29 日(土) ～ 30 日(日)

2026 年

1 月 17 日(土) ～ 18 日(日)

3 月 7 日(土) ～ 8 日(日)

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日 18時～最終日朝食) カルメル会士

2025 年 8 月 16 日(土) ～ 25 日(月)

2025 年 12 月 26 日(金) ～ 2026 年 1 月 4 日(日)

★教会の祈り（時課の祈り）を軸とした 黙想の場を提供いたします。

【ご利用に際して】

- ・介助やサポートなしで生活できる方。
- ・上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・個人の場合はご家族・ご親族に、奉獻生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに
1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院 (黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou_kmng@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内

(2025 年 7 月～2026 年 3 月)

【一般のための黙想】1泊2日（土曜 午後5時～日曜午後4時）中川博道神父
5:30 サルヴェ・レジーナ（修道院）から開始

~~7/19—20~~ キャンセル待ち 9/20—21 変更 ~~12/6—7~~→**12/20—21**
2026 年 1/31—2/1 3/7—8

【聖書深読】（土曜午前10時～午後4時）中川博道神父

7/5 9/13 11/29
2026 年 1/17 3/14

【水曜黙想会】（午前10時～午後4時）中川博道神父

7/23 9/17 12/17
2026 年 1/21 3/11

【カルメルの霊性】（土日）午後5時から 中川博道神父

~~幼きテレーズ 9/27—28~~ キャンセル待ち
~~アヴィラのテレジア 10/18—19~~ キャンセル待ち
~~十字架のヨハネ 12/13—14~~ キャンセル待ち

【祈りの学校】 総合編（木）午前10時から 松田浩一神父

7/3 9/18 10/9 変更 ~~11/13~~→**11/20** 12/11

【カトリック信仰生活の学び舎】

《カテキズムに基づく》（火）午前10時から 松田浩一神父

7/22 ~~9/2~~中止 10/7 11/11 12/2

【奉獻生活者の黙想】（午後5時～午前9時）一般参加可

8月1日（金）夕食～10日（日）朝食 和田誠神父
12月27日（土）夕食～1月5日（月）朝食 中川博道神父
2026 年
3月18日（水）夕食～27日（金）朝食 中川博道神父

ーその他皆さまが企画なさったグループ黙想会も歓迎いたしますー

☆お申し込みはEメール、FAX、はがきで

お名前と連絡先をご記入の上、お申込み下さい。

お電話は午前10時～午後4時の間にお願い致します。

受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、
お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。

またタオル類も準備してありますが、各自持参してもかまいません。

浴室にボディソープ・シャンプー等はございますが

浴衣やブラシ・歯ブラシ等はありませんので、各自でお持ちください。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性

—キリストの十字架の恵みをより味わうために—

2025年7月19日（土）（14：30～16：30）

申命記の神学

その後の日程：2025年9月20日（土）、10月11日（土）、11月15日（土）

持ち物：必ず聖書（旧約＋新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

静修の集い（名古屋日比野修道院）

2025年9月27日（土）10：00～15：00

講話担当司祭：古川利雅神父

テーマ：「ロス・アンデスのテレサ」と共に神との親しさを生きる

【スケジュール】

10：00～10：20 はじめの祈り

10：30～11：30 講話①

11：30～12：00 ご聖体顕示、念祷

12：00～13：00 昼食（各自持参）

13：00～14：00 講話②、

14：10～ミサ、その後茶話会、解散（15：00頃）

持ち物：昼食（各自）

参加費：無料（自由献金をお願いいたします）

以降の日程：2025年12月6日（志村武神父）

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

テーマ「希望の巡礼者」

「主の恵みの年を告げ知らせるために」

(ルカ4章19節)

毎月第2木曜日(10:00～15:00)

予約は前日の16:00まで

- 1月 9日 「聖年」とは－新しい始まりの希望：聖年を迎える
- 2月13日 「希望はわたしたちを欺くことはありません」－教皇フランシスコの呼びかけ
- 3月13日 「希望の巡礼者」－イエス様とともに歩む
- 4月10日 「希望」と信仰－希望はイエスのご復活に基づく信仰の実り
- 5月 8日 「希望」と愛－希望は神の愛に基づいています
- 6月12日 「希望」と愛の業－希望は愛の業によって現れる
- 7月10日 「希望」と祈り－希望は祈りによって養われる
- 8月 休み
- 9月11日 「希望」と平和－主は与えてくださる平和における希望
- 10月 9日 「希望」と福音宣教－世界に希望を届ける、教会の使命
- 11月13日 「希望」と神の国－神の国の到来を待ち望む
- 12月11日 「希望」と喜び－神の訪れはもたらす贈り物。

- ・ 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦
1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

サダナ瞑想

✦東洋の瞑想とキリスト者の祈り✦

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日 時	指導	開催場所	申込み
札幌 フォローアップ	8/21(木)9:30- 22(金)18:00	Fr 植栗	札幌 カトリックセンター (札幌市中央区)	本間 攝子 TEL080-3260-1864
札幌 I & アドバンス	8/23(土)9:30- 24(日)18:00			本間不在時: 山崎有紀 TEL090-4720-2157
信越 I & アドバンス	8/29 (金)9:00- 31(日)15:00 (前泊可)	同上	妙高教会 赤倉山荘 (新潟県妙高市)	久喜 ますみ TEL090-7842-9404 masumi.kyuki@gmail.com
広島 フォローアップ	9/12 金)9:00- 13(土)16:00	同上	庚午カトリックセン ター (広島市西区)	来間(くるま) 裕美子※ TEL: 090-5325-2518
広島 I & アドバンス	9/14 (日) 9:00- 15(月・祝)16:00			*ショートメールは避け てください sadhana79878@ gmail.com
仙台・福島 フォローアップ	9/20 (土)9:00- 21 (日)18:00 *前泊・継続宿泊・ 通いも可能です。	同上	仙台教区宣教センタ ー(仙台市宮城野区) (広島市西区)	長尾 雅子 TEL: 090-3647-4135 Oaz2.540787230a@ ezweb.ne.jp
仙台 I & アドバンス	9/22 (月) 9:00- 23 (火・祝) 18:00			
入門A	9/28 (日) 9:30-17:00	同上	シャルトル聖パウロ 会九段修道院	来間(くるま) 裕美子※
浜名湖 リピーターの会	10/11(土)9:00- 13(月・祝)16:00	同上	浜松三ヶ日研修所 (浜松市北区)	同上

※ショートメールは避けてください。申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は 090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax : 042-325-7554

- 入門Cへの参加=入門Aまたは入門Bを終えていること。
- フォローアップおよびリピーターへの参加=サダナIを終えていること。



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。いままで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』(2017年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在(無機物から植物や動物や人間)を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所: イグナチオ教会岐部ホール 404 号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩 1 分)

次回の予定: 7 月 10 日(水) 13:30～15:30

講話の箇所: W・ジョンストン著『愛と英知の道』134 頁～論争から

2025 年度スケジュール

1 月 16 日、3 月 13 日、5 月 15 日、7 月 10 日、9 月 18 日、11 月 20 日

主催: 慈しみ深き会

指導: 九里^{くのり} 彰神父(カルメル修道会)

* 参加費無料(献金歓迎)

* 問い合わせ先: 042-473-6287 篠原(11:00～20:00)

『靈性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、
冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご利用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」

Tel:0774-32-7456

Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています



***** 8月休刊のお知らせ *****

「霊性センターニュース」は、8月（号）休刊となります。

9月号は、8月下旬発送予定です。ご了承下さい。